連載・青少年健全育成シリーズ　第270回

「親子で育てる読書能！」

ある土曜日の山手線。ちょうど、午後1時頃だっただろうか。ふと真向かいの7人掛けの席を見渡すと、そこは満席で、さすが山手線。土曜なのに混雑しているなと思った。その満席の7人を何気なく眺めていたときに、思わずその数を数えてしまったのである。なんと、7人のうち4人がスマートホンを手に何やら携帯画面とにらめっこしている姿がそこにあった。

私の大学時代は、もうすでに40年前にもなるが、当時はもちろん電車内で携帯を手にするはずもなく、文庫本を読んでいる学生やOLなどがあちらこちらで見られたものだ。だが、今や猫も杓子も『スマホ』という時代に突入してしまった。

読売新聞が10月27日から始まる読書週間を前に『読書週間世論調査』を掲載した。その見出しには、「本離れ懸念！」「1カ月全く読まず53％」と太字で記されていた。この調査の中で、今回は急速に普及しているスマホの使用が、読書時間に与える影響も調査していた。通話以外のメールやネット、ゲームなどでスマホを使っている人（全体の28％）のうち、スマホを使い始めて読書時間が「減った」と答えた人は17％だったが、1日に1時間以上使う人に限ると27％となり、使用時間が長くなるほど、「減った」人の割合が高くなる傾向が見られた。また、20歳代全体では、スマホを持っている人は86％で、通話以外で1時間以上使う人は50％に上る。若者の読書離れが、今後ますます進む可能性は極めて高い。

この新聞記事の出るちょうど10日前、『家読（うちどく）フォーラム』講演会が、山梨県立図書館で開催された。この県立図書館の館長である阿刀田高さんの講演を興味深く聴いた。「能生理学者が言うのに、読書能は13～15歳ぐらいまでにできる。」と、また、館長当人の体験からも、「若いときの読書が役に立った。」ことを話題にされていた。そして、「自ら手を伸ばせば読書できる環境は大事である。」と結んだ。

齋藤孝著『読書力』（岩波新書）では、「読書は単に情報の摂取のためにあるばかりではない。思考力を鍛え、人間をつくるものだ。」また、「読書は、人間の幅を広げ器を大きくする。」と訴えている。

山梨県では最近、「家読百選低・中・高学年版」を選定し、親子での家読を推進している。都留市には、市立図書館を始め各小中学校の図書室には多くの素晴らしい本がある。

時間をどう使おうと自由である。スマホは、大変便利な道具であるが…。少しだけ、読書に時間を費やす習慣を。今年の流行語で言うならば、「いつ読むの？今でしょ。」といったところだろうか。

青少年への声かけ・あいさつ運動の推進
『大人も子どももすすんであいさつをしよう』

毎月第１日曜日は「家庭の日」
毎月第３日曜日は「青少年を育む日」です。

青少年育成都留市民会議編集委員

広報「つる」広告募集！

あなたのお店の広告を広報つるに載せてみませんか？
広報「つる」は、都留市内の各家庭に配布されています（10,500部発行）ので、多くの方の目に触れます！

問合先：行政管理課　秘書広報担当

広告料金

掲載場所	印刷色	金額 / 枠	備考
裏面	カラー	20,000	2カ月掲載
内面	2色刷り	10,000	2カ月掲載

掲載月は、①1・2月②3・4月③5・6月④7・8月⑤9・10月⑥11・12月の6パターンとなります。
掲載状況につきましては、下記をご参考としてください。
また、詳細につきましては、ぜひお問い合せください。

広　告　掲　載　欄

広　告　掲　載　欄